

出シアル儘ヲ記載セリ



昭和十七年三月二十八日	決議
昭和十七年三月三十一日	公布
勅令 第三〇九號	

海軍省官制中改正ノ件

参照添附

勅令第 號

海軍省官制中左ノ通改正ス

第四條 削除

第九條ノ四中「及第三課」ヲ「、第三課及第四課」ニ改ム

第九條ノ六中第七號乃至第九號ヲ削ル

第九條ノ八 兵備局第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 勞力ノ需給調整ニ關スル事項

二 國家總動員法ニ依ル徵用ニ關スル事項

三 其ノ他勞務一般ニ關スル事項

第十八條 醫務局ニ第一課及第二課ヲ置ク

第十九條 醫務局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 軍醫科、藥劑科及齒科醫科士官以下ノ本務ニ關スル事項
- 二 醫務衛生ノ教育ニ關スル事項
- 三 治療品ニ關スル事項

第二十條 醫務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 軍人ノ體格及體力ニ關スル事項
- 二 醫務衛生ノ調査及企畫ニ關スル事項
- 三 恩給診斷ニ關スル事項

第二十五條第三號中「司法事務官、法務官」ヲ「法務科士官」ニ改メ
同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 軍事司法ノ教育ニ關スル事項

第二十六條中「醫務局及」ヲ削ル

別表軍務局ノ項中 「中少佐 (内兼務) 一九」ヲ 「中少佐 (内兼務) 二〇」ニ、
機關中少佐 二一」ヲ 機關中少佐 三二」ニ、

同表兵備局ノ項中 「

第三課	長	大中佐	一
-----	---	-----	---

第三課	長	大
第四課	長	主機

中佐	一
關大中佐	一
計大中佐	一

「中少佐 (内兼務) 一三」ヲ 「中少佐 (内兼務) 一四」ニ、
機關中少佐 四」ヲ 機關中少佐 (内兼務) 一五」ニ、
「中少佐 (内兼務) 一」ヲ 機關中少佐 (内兼務) 一」ニ、

同表人事局ノ項中 「機關中少佐 一」ヲ 「機關中少佐 二」ニ、

同表軍需局ノ項中 「機關中少佐 六」ヲ 「機關中少佐 七」ニ、

同表醫務局ノ項中

局長	軍醫大	一
員	軍醫中	六
	藥劑科佐官	二

第一課	長	軍醫大
第二課	長	軍醫大

中佐 一	周	軍醫中少佐 六
中佐 一	員	(内兼務) 一
		藥劑科佐官 二

ニ、同表經理局ノ項中 「主計中少佐 (内兼

一八 「主計中少佐 二二二 務二」ヲ (内兼務一) ヲ、同表法務局ノ項中「長 一」

ヲ「長 法務中少將 一」ニ、「司法事務官 専任 三」ヲ

「法務中少佐 三」ニ改ム

同表中「事務官 専任 八」ヲ「理事官 専任 一〇」ニ、「屬 技手

一四二 六」ヲ「屬 技手 一六八 五」ニ、「合計 三百二十七人」ヲ

「合計 三百六十六人」ニ改ム

同表備考第五號中「前任ノ」ヲ削リ「兼任」ヲ「兼務」ニ改ム

同表備考第七號ヲ削ル

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍事務官ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルト

キハ海軍理事官ニ同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

参照

○海軍省官制

勅令第五十七號

第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第四條 海軍省ニ事務官ヲ置ク委任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第九條ノ四 兵備局ニ第一課第二課及第三課及第四課ヲ置ク

第九條ノ六 兵備局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

(中略)

七 勞力ノ需給調整ニ關スル事項

八 國家總動員法ニ依ル徵用ニ關スル事項

九 其ノ他勞務一般ニ關スル事項

第九條ノ八 兵備局第四課ニ於テハ左ノ事務

ヲ掌ル

一 勞力ノ需給調整ニ關スル事項

二 國家總動員法ニ依ル徵用ニ關スル事項

三 其ノ他勞務一般ニ關スル事項

第十八條 削除 醫務局ニ第一課及第二課

置ク

第十九條 削除 醫務局第一課ニ於テハ左ノ

事務ヲ掌ル

一 軍醫科、藥劑科及齒科醫科士官以下ノ本

務ニ關スル事項

二 醫務衛生ノ教育ニ關スル事項

三 治療品ニ關スル事項

第二十條 醫務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ

掌ル

一 醫務衛生、恩給診斷及軍人ノ體格及體力

ニ關スル事項

二 治療品醫務衛生ノ調査及企畫ニ關スル
事項

三 軍醫科及藥劑科士官以下ノ本務恩給診
斷ニ關スル事項

四 醫務衛生ノ教育ニ關スル事項

第二十五條 法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
(中略)

三 司法事務官、法務官、法務科士官、録事及監
獄官以下ノ本務ニ關スル事項

四 軍事司法ノ教育ニ關スル事項

第二十六條 各局ニ局長、課長及局員ヲ置ク但
シ醫務局及法務局ニハ課長ヲ置カス

(下略)

附則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ海軍事務官ノ職ニ在ル者別
ニ辭令ヲ發セテハハルトシハ海軍理事官ニ同
官等俸給ヲ以テ任ゼテレタルモノトス

○海軍司法事務官設置制廢止勅令案

勅令第

號

海軍司法事務官設置制ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍司法事務官設置制

大正十一年
勅令第八十五號

第一條 海軍ニ海軍司法事務官ヲ置ク
第二條 海軍司法事務官ハ專任十一人奏任トス但シ勅任ノ海軍法務官ニシテ海軍司法事務官ヲ兼任スルモノハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

參照

海軍軍法會議法中左ノ通改正ス

- 第八條第四號中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム
- 第九條第一項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ、同項但書中「要港部」ヲ「警備府」ニ改ム
- 第十條第三項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ、「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改ム
- 第十三條第二號中「海軍區」ヲ「警備區」ニ改ム
- 第十四條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ、「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改ム
- 第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
警備區ヲ有スル艦隊ノ艦隊軍法會議ニ在リテハ其ノ警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件ニ付亦前項ニ同シ
- 第三十一條中「海軍法務官」ヲ「法務官」ニ改ム
- 第三十五條 法務官ハ司法官試補タルノ資格ヲ有シ勅令ノ定ムル所ニ依リ實務ヲ修習シタル海軍ノ法務科士官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三十六條乃至第四十一條 削除
- 第四十四條、第四十九條第一項及第五十條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第五十二條第二項第一號中「尉官一人」ノ下ニ「又ハ將官一人佐官一人尉官一人」ヲ加フ

第六十三條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第六十九條中「法務官試補」ヲ「實務修習中ノ法務科士官」ニ改ム

第七十條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第七十三條ノ二 海軍大臣ハ海軍ノ武官又ハ文官中ヨリ戰地又ハ占領地警備區内ニ於テ海軍司法警察官トシ

テ勤務スル者ヲ指定スルコトヲ得

第七十七條第二項中「巡查」ノ下ニ「又ハ第七十三條ノ二ノ規定ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ノ部

下ニ屬スル者」ヲ加フ

第九十六條第一項但書中「法務官試補」ヲ「實務修習中ノ法務科士官」ニ改ム

第三百十二條第一項、第四百二十條及第四百六十一條第二項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニモ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ゲズ

本法施行ノ際現ニ海軍法務官タル者ニシテ海軍ノ法務科士官ニ任ゼラレザルモノハ退職ノ海軍法務官トシテ

本法施行後ト雖モ其ノ官ヲ保有セシメ其ノ身分取扱ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際海軍法務官(兼官ヲ含ム以下同ジ)ヨリ海軍ノ法務科士官ニ任ゼラレタル者ニ對シ恩給法第三十

條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ海軍法務官トシテノ在職年ノ計算ニ付テハ同條中十分ノ七トアルハ十

七分ノ十三トス

勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外他ノ法律中海軍ノ主理トアリ又ハ海軍法務官トアルハ法務官

タル海軍ノ法務科士官トス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

海軍軍法會議法中改正法律案理由書

從來文官タリシ海軍法務官ヲ武官ニ改メ以テ建軍ノ本旨ト統帥ノ要求トニ適應スルニ遺憾ナキヲ期スル等ノ爲海軍軍法會議法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

海軍軍法會議法中改正新舊對照表

新(改正)

第八條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

- 一 高等軍法會議
- 二 東京軍法會議
- 三 鎮守府軍法會議
- 四 警備府軍法會議
- 五 艦隊軍法會議
- 六 合圍地軍法會議
- 七 臨時軍法會議

第九條 高等軍法會議、東京軍法會議、鎮守府軍法會議及警備府軍法會議ハ之ヲ常設ス但シ警備府ニハ軍法會議ヲ設ケサルコトヲ得

艦隊軍法會議ハ必要ニ因リ艦隊司令長官、獨立艦隊

舊(現行)

第八條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

- 一 高等軍法會議
- 二 東京軍法會議
- 三 鎮守府軍法會議
- 四 要港部軍法會議
- 五 艦隊軍法會議
- 六 合圍地軍法會議
- 七 臨時軍法會議

第九條 高等軍法會議、東京軍法會議、鎮守府軍法會議及要港部軍法會議ハ之ヲ常設ス但シ要港部ニハ軍法會議ヲ設ケサルコトヲ得

艦隊軍法會議ハ必要ニ因リ艦隊司令長官、獨立艦隊

司令官若ハ分遣艦隊司令官ノ率キル艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ニ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ海軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス

第十條 高等軍法會議又ハ東京軍法會議ハ海軍大臣ヲ以テ長官トス

鎮守府軍法會議ハ鎮守府司令長官ヲ以テ長官トス

警備府軍法會議ハ警備府司令長官ヲ以テ長官トス

特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ指揮官ヲ以テ長官トス

第十三條 鎮守府軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十四條 警備府軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 警備府司令長官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十五條 艦隊軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ノ長ノ部下ニ屬スル者

司令官若ハ分遣艦隊司令官ノ率キル艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ニ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ海軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス

第十條 高等軍法會議又ハ東京軍法會議ハ海軍大臣ヲ以テ長官トス

鎮守府軍法會議ハ鎮守府司令長官ヲ以テ長官トス

要港部軍法會議ハ要港部司令官ヲ以テ長官トス

特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ指揮官ヲ以テ長官トス

第十三條 鎮守府軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 海軍區内ニ在リ又ハ海軍區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十四條 要港部軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 要港部司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十五條 艦隊軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ノ長ノ部下ニ屬スル者

及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 占領地警備區内ニ在リ又ハ占領地警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 占領地警備區内ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

警備區ヲ有スル艦隊ノ艦隊軍法會議ニ在リテハ其ノ警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件ニ付亦前項ニ同シ

第三十一條 軍法會議ニ判士、法務官、海軍録事及海軍警査ヲ置ク

第三十五條 法務官ハ司法官試補タルノ資格ヲ有シ勅令ノ定ムル所ニ依リ實務ヲ修習シタル海軍ノ法務科士官ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條 削除

第三十七條 削除

第三十八條 削除

及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 占領地警備區内ニ在リ又ハ占領地警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 占領地警備區内ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第三十一條 軍法會議ニ判士、海軍法務官、海軍録事及海軍警査ヲ置ク

第三十五條 法務官ハ終身官トシ勅任又ハ奏任トス

第三十六條 法務官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得

ス

一 公然政事ニ關係スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト

三 帝國議會ノ議員又ハ道、府、縣、郡、市、區、町、村會ノ議員ト爲ルコト

四 報酬アル公務ニ就クコト

五 商業ヲ營ムコト

第三十七條 法務官ハ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ免官又ハ轉官セララルコトナシ

第三十八條 法務官身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執スルト能ハサルニ至リタルトキハ海軍大臣ハ高等軍法會議總會ノ決議ニ因リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第三十九條 削除

第三十九條 海軍大臣ハ左ノ場合ニ於テハ法務官ニ現

俸ノ半額ヲ給シテ休職ヲ命スルコトヲ得

一 懲戒令ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四 戰時又ハ事變ニ際シ臨時増員シタル場合ニ於テ

其ノ必要止ミ過員ヲ生シタルトキ

五 病氣ノ爲執務セサルコト六月ニ至リタルトキ

休職ノ期間ハ前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ其

ノ事件ノ繫屬中トシ第三號乃至第五號ノ場合ニ於テ

ハ三年トス

第四十條 法務官前條第一項第三號乃至第五號ノ規定

ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ト爲リタルトキハ退職ト

ス

第四十條 削除

第四十二條 削除

第四十四條 特設軍法會議及警備府軍法會議ニ於テハ

長官ハ海軍ノ准士官又ハ下士官ヲシテ録事ノ職務ヲ

行ハシメ海軍ノ下士官又ハ兵ヲシテ警査ノ職務ヲ行

ハシムルコトヲ得

第四十四條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ

長官ハ海軍ノ准士官又ハ下士官ヲシテ録事ノ職務ヲ

行ハシメ海軍ノ下士官又ハ兵ヲシテ警査ノ職務ヲ行

ハシムルコトヲ得

第四十九條 東京軍法會議、鎮守府軍法會議、警備府

軍法會議及特設軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官

一人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官一人尉官三

人又ハ佐官二人尉官二人

二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナル

トキハ佐官二人尉官二人

三 被告人佐官ナルトキハ將官一人佐官三人又ハ將

官二人佐官二人

四 被告人將官ナルトキハ將官四人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十條 特設軍法會議及警備府軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十二條 高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官二人尉官一人又ハ將官一人尉官一人

二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルトキハ將官一人佐官二人

三 被告人佐官ナルトキハ將官二人佐官一人又ハ將官三人

四 被告人將官ナルトキハ將官三人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第六十三條 特設軍法會議及警備府軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十九條 長官ハ實務修習中ノ法務科士官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十條 特設軍法會議及警備府軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十三條ノ二 海軍大臣ハ海軍ノ武官又ハ文官中ヨリ戰地又ハ占領地警備區内ニ於テ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ヲ指定スルコトヲ得

第七十七條 警査又ハ憲兵兵ハ檢察官又ハ海軍司法警察官ノ命令ヲ受ケ海軍司法警察吏トシテ捜査ノ補助

官二人佐官二人

四 被告人將官ナルトキハ將官四人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十二條 高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官二人尉官一人

二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルトキハ將官一人佐官二人

三 被告人佐官ナルトキハ將官二人佐官一人又ハ將官三人

四 被告人將官ナルトキハ將官三人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第六十三條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十九條 長官ハ法務官候補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十七條 警査又ハ憲兵兵ハ檢察官又ハ海軍司法警察官ノ命令ヲ受ケ海軍司法警察吏トシテ捜査ノ補助

ヲ爲ス

第七十三條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部下ニ屬スル巡查又ハ第七十三條ノ二ノ規定ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ノ部下ニ屬スル者亦前項ニ同シ

第九十六條 裁判官ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ實務修習中ノ法務科士官ノ傍聴ヲ許スコトヲ得

裁判官ノ評議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末及各裁判官ノ意見ハ祕密トス

第三百十二條 艦隊軍法會議ノ長官捜査ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ必要アリト思料スルトキハ被告事件ヲ東京軍法會議、鎮守府軍法會議、警備府軍法會議又ハ臨時軍法會議ノ長官ニ移送スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ事件ノ移送ヲ受ケタル長官ハ捜査ノ報告アリタルモノト看做シ處分スヘシ

第三百九條第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ移送ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十條 上告ハ東京軍法會議、鎮守府軍法會議又ハ警備府軍法會議ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百六十一條 高等軍法會議上告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻シ又ハ原軍法會議以外ノ東京軍法會議、鎮守府軍法會議若ハ警備府軍法會議ニ移送スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

ヲ爲ス

第七十三條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部下ニ屬スル巡查亦前項ニ同シ

第九十六條 裁判官ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ法務官試補ノ傍聴ヲ許スコトヲ得

裁判官ノ評議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末及各裁判官ノ意見ハ祕密トス

第三百十二條 艦隊軍法會議ノ長官捜査ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ必要アリト思料スルトキハ被告事件ヲ東京軍法會議、鎮守府軍法會議、要港部軍法會議又ハ臨時軍法會議ノ長官ニ移送スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ事件ノ移送ヲ受ケタル長官ハ捜査ノ報告アリタルモノト看做シ處分スヘシ

第三百九條第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ移送ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十條 上告ハ東京軍法會議、鎮守府軍法會議又ハ要港部軍法會議ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百六十一條 高等軍法會議上告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻シ又ハ原軍法會議以外ノ東京軍法會議、鎮守府軍法會議若ハ要港部軍法會議ニ移送スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニモ亦之ヲ適
用ス

前項ノ規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ依リ爲シ
タル訴訟手續ノ效力ヲ妨ゲス

本法施行ノ際現ニ海軍法務官タル者ニシテ海軍
ノ法務科士官ニ任セラザルモノハ退職ノ海軍
法務官トシテ本法施行後ト雖モ其ノ官ヲ保有セ
シメ其ノ身分取扱ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際海軍法務官(兼官ヲ含ム以下同ジ)ヨ
リ海軍ノ法務科士官ニ任セラザル者ニ對シ恩
給法第三十條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其
ノ海軍法務官トシテノ在職年ノ計算ニ付テハ同
條中十分ノ七トアルハ七分ノ十三トス

勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外
他ノ法律中海軍ノ整理トアリ又ハ海軍法務官ト
アルハ法務官タル海軍ノ法務科士官トス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕大正九年勅令第十號海軍武官官階ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

編名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣
海軍大臣

勅令第 號

大正九年勅令第十號中左ノ通改正ス

別表中

齒科醫科

海軍齒科
醫少將
海軍齒科
大佐
海軍齒科
中佐
海軍齒科
少佐
海軍齒科
大尉
海軍齒科
中

醫科
海軍齒科
少尉

ヲ

法務科	齒科醫科
海軍法務 中將少	海軍齒科 醫少將
海軍法務 大將	海軍齒科 大佐
海軍法務 中佐	海軍齒科 中佐
海軍法務 少佐	海軍齒科 少佐
海軍 大	海軍 醫

大尉 法務	海軍齒科 中尉	海軍齒科 少尉
中尉 法務		

ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理由
海軍軍法會議法ノ改正ニ伴ヒ海軍法務科士官ノ官階ヲ定ムルノ要アル
ニ依ル

朕海軍武官任用令中改正ノ件ヲ敷可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣
海軍大臣

勅令第 號

海軍武官任用令中左ノ通改止ス

第十八條ノ二ヲ第十八條ノ三トス

第十八條ノ二 法務中尉ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ任用

ス

一 海軍法務學生ト爲リ大學等ニ依ル大學ノ法學部ニ於テ學誅ヲ

修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ニシテ司法官試補タルノ資格ヲ

有スルモノ

二 司法官試補タルノ資格ヲ有スル者ニシテ身體検査ニ合格シタ

ルモノ

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍法務官ヲ武官ト爲スニ件ヒ改正ノ要アルニ依ル

理 田

朕海軍法務官又ハ海軍法務官試補タリシ者ヨリ海軍法務科士官ニ任
用等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣
海軍大臣

勅令第

號

海軍法務官又ハ海軍法務官試補タリシ者ハ當分ノ内海軍武官任用令
ニ拘ラズ法務官タリシ者ハ前官等ト概テ同官等ノ現役海軍法務科士
官ニハ海軍法務官試補タリシ者ハ現役海軍法務中尉ニ海軍武官任用
委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル士官ニシテ任用ノ際現役年限年
ヲ超ユルモノハ海軍武官服役令ニ拘ラズ之ヲ現役ニ服セシム
前項ノ規定ニ依リ現役ニ服スル者ノ身分取扱ニ付テハ戰時尋常ノ際
召集セラレタル者ニ同ジ
第一項ノ規定ニ依リ任用セラレタル法務科士官ニ付テハ海軍大臣ノ
定ムル所ニ依リ當該法務科士官ノ官等以上ノ官等ノ海軍法務官トシ
テノ在職期間ヲ海軍武官進級令ニ規定スル實役停年ニ通算スルコト
ヲ得
第一項ノ規定ニ依リ任用セラレタル法務科士官トシテ受クベキ俸給

額ガ海軍法務官又ハ海軍法務官試補トシテ受ケタル最終ノ俸
リ少キトキハ海軍法務官又ハ海軍法務官試補トシテ受ケタル
俸給額ヲ給ス

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理 田

海軍法務官ヲ武官トナスニ件ヒ海軍法務科士官ヲ海軍法務官、海軍
法務官試補ノ職ニ在リタル者ヨリモ任用スルノ途ヲ拓クノ要アルニ
依ル

秘

昭和十七年三月二十八日	決議
昭和十七年三月三十一日	公布
勅令 第三二一號	

陸軍法務官及海軍法務官任用令廢止等ノ件

参照添附